

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

PAT-NO: JP410286044A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 10286044 A
TITLE: SPOON NET
PUBN-DATE: October 27, 1998

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
OZAWA, MASAKAZU

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME COUNTRY
KK OZAWA SEIBIYOUSHIYO N/A

APPL-NO: JP09131569
APPL-DATE: April 14, 1997

INT-CL (IPC): A01K077/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a spoon net freely changeable in size of net on the spot depending upon the size of a fish to be scooped and convenient to carry and use.

SOLUTION: A metal fitting 3 is detachably screwed to the tip of a pole 4. Curved rings are made into two narrow elastic iron belts 5 and both the ends of the iron belts are fixed to the metal fitting 3. Both the tips of the iron belts 5 are slidably superimposed and are fixed at a free position by a wing nut 13 so that the size of a base 2 can be freely changed. A slide zipper in

the depth direction of a net is attached to one side of the net, the pole 4 is made of a hollow tube, the inner diameter of the hollow part is larger than the width of the iron belts 5 and the length of the hollow part is larger than the length of the iron belts 5. Consequently the iron belts 5 can be housed in the pole 4.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-286044

(43)公開日 平成10年(1998)10月27日

(51)Int.Cl.⁶

A 0 1 K 77/00

識別記号

F I

A 0 1 K 77/00

A

審査請求 有 請求項の数3 書面 (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平9-131569

(22)出願日 平成9年(1997)4月14日

(71)出願人 597070471

有限会社小澤製鉄所

大阪府大阪市東成区神路2丁目4番10号

(72)発明者 小澤 正和

大阪府大阪市東成区神路2丁目4番10号有

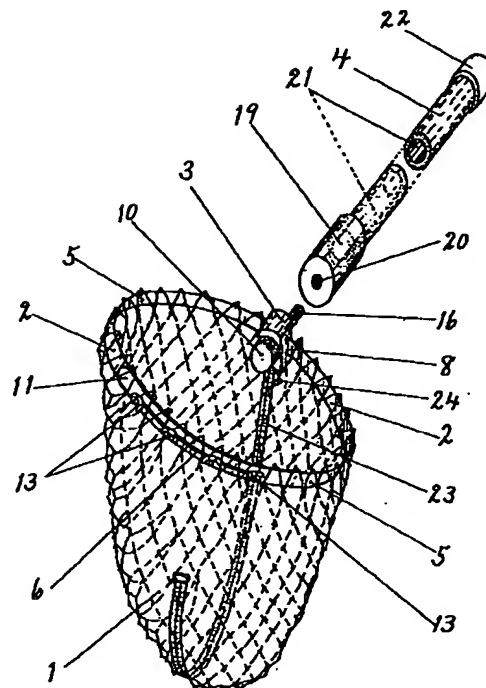
限会社小澤 製鉄所内

(54)【発明の名称】 たも網

(57)【要約】

【目 的】 すくい上げる魚の大きさによつて、その場でたも網の大きさを自由に変えられ、また、携行と使用に便利な、たも網を供給する。

【構 成】 取付金具を棹の先端に、取付け取り外し自在に螺着し、曲げ輪を幅の狭い2本の弾性帯金として、両帯金の末端を取付金具に固定し、両帯金の先端を摺動自在に重ねて、これを蝶ナットで自由な位置に固定することにより、口金の大きさを自由に変えられるようにし、網の一侧に、網の深さ方向にスライド・ジッパーを取り付け、かつ、棹を中空の管状として、中空部の内径を帯金の幅より大とし、中空部の長さを帯金の長さより大、とすることにより、帯金を棹の内部に収納可能としたことを、特徴としている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】漁業、釣り等に用いる「たも網」に於いて、幅が狭く、かつ、その中央に長さ方向のスリット(6)を設けた、弾性を有する2枚の帯金(5)の後端(7)を、取付金具(3)の側面(14)の挿入隙間(8)に挿入し、取付金具(3)表面(9)より固定ねじ(10)を螺入して、帯金(5)を、取付金具(3)の内部において、取付金具(3)に圧着固定したこと、両帯金(5)を弯曲してその先端部を重ね合わせ、両帯金(5)のスリット(6)を重さね、該スリット(6)に適数のボルト(12)を挿通し、螺ナット(13)を螺入して、両帯金(5)を固定して、口金(2)を構成したこと、取付金具(3)の後方に、取付金具(3)と同体に、取付雄ねじ(16)を突出させたこと、棹(4)の一端に、取付金具(3)より突出した取付雄ねじ(16)に螺合すべき、取付雌ねじ(20)を有すること、を特徴とする、たも網。

【請求項2】網(1)の一侧に、網(1)の深さ方向にスライド・ジッパー(23)を取り付け、該スライド・ジッパー(23)を解放することにより、網(1)の上縁(25)を直線に展開し得るごとくにした、請求項1記載の、たも網。

【請求項3】棹(4)を中空の管状体で構成し、管状体の棹(4)の内腔(21)の大きさを、その内径が帯金(5)の幅(W)より大きく、その長さが帯金(5)の長さ(L)より長く、定め、棹(4)の一端にキヤツプ(22)を嵌合させたこと、を特徴とする、請求項1、および請求項2、記載の、たも網。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、漁業、釣り等に用いる「たも網」の改良に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来のたも網は、太い金属線を曲げて輪状の曲げ輪とし、金属線の両端を固定することによって、曲げ輪が戻らないようにしてあるため、たも網の棹の大きさは一定であつた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】すくい上げる魚の大きさによって、その場で、網の大きさを自由に変えられるようにしたい。また、たも網を携行する場合、なるべく嵩(かさ)を小さくして、携行を便利にするとともに、たも網の組み立てをもなるべく容易にしたい。

【0004】

【課題を解決するための手段】取付金具を棹の先端に取付け取はずし自在に、螺着し、従来金属線で造っていた

曲げ輪を、幅の狭い2本の弾性帯金とし、両帯金の末端を取付金具に固定し、両帯金の先端を摺動自在に重ね、これを螺ナットで自由な位置に固定することにより、口金の大きさを自由に変えられるようにし、

【0005】かつ、棹を中空の管状として、中空部の内径を帯金の幅より大とし、中空部の長さを帯金の長さより大とすることにより、帯金を棹の内部に収納可能とした。

【0006】また、網の一侧にスライド・ジッパーを取り付けて、網への弾性帯金の挿通を容易にすることにより、たも網の組み立てを容易にした。

【0007】

【発明の作用】取付金具を棹の先端に、取付け、取はずし自在に、螺着したので、たも網の使用時には網を棹の先端に取り付け、携行時には網を取り外して、全体を小さくして携帯できるので、携帯および使用に便利である。

【0008】従来金属線で造っていた曲げ輪を、幅の狭い2本の弾性帯金とし、両帯金の末端を取付金具に固定し、両帯金の先端を摺動自在に重ねて、これを螺ナットで固定することにより、口金の大きさを自由に変えられる。

【0009】棹を中空の管状として、中空部の内径を帯金の幅より大とし、中空部の長さを帯金の長さより大としてあるので、帯金およびボルト、ナットなどを、棹の内部に収納して携行できる。

【0010】また、網はスライド・ジッパーを解放すれば網の上縁が一直線になるので、帯金の挿入が容易である。

【0011】

【実施例】図について、本発明実施の一例を説明すると、(1)は網、(2)は口金、(3)は取付金具、(4)は棹、である。口金(2)は、同形同大の2本の帯金(5)を、弾弯曲して繋ないだもので、例えば図2に示したような平面形状で、帯金(5)の長さ方向の中心線に沿ってスリット(6)が設けられている。その実施の一例は、

長さ(L)	960	mm
幅(W)	24	mm
厚さ(t)	0.8	mm
スリットの長さ(l)	500	mm
スリットの幅(w)	4.5	mm
材質	ステンレス鋼	

である。
【0012】この帯金(5)を2本用いて、夫々の帯金(5)の後端(7)を取付金具(3)の挿入隙間(8)より取付金具(3)内に挿入し、挿入隙間(8)内に於いて重ね合わせ、金具(3)の表面(9)側より固定ねじ(10)を螺入して、帯金(5)の両後端(7)を取付金具(3)に固定する。

【0013】両帯金(5)を弾弯曲して、その先端(11)部分を重ね合わせ、両帯金(5)のスリット(6)を重ねて連通させ、このスリット(6)に適数の六角ボルト(12)を通し、夫々の六角ボルト(12)に螺ナット(13)を螺入して、円形の口金(2)を完成させる。前記寸法の帯金(5)を用いると、出来上がった円形の口金(2)の直径は、約550mmから350mmまで、自由な直径の開口部が得られる。

【0014】次に、取付金具(3)には、第5図に見るとおり、その両側面(14)を貫通した挿入隙間(8)が設けられており、金具の裏面(15)には棹(4)を取り付けるための取付雄ねじ(16)が、取付金具(3)と同体に、突出している。挿入隙間(8)の幅は、帯金具(5)が2枚重なった厚さより、僅かに大きく造ってある。

【0015】取付金具の表面(9)中央には固定ねじ孔(17)が設けられており、この固定ねじ孔(17)に固定ねじ(10)を螺入して、取付金具(3)の挿入隙間(8)に挿入された帯金(5)を、取付金具(3)内において固定する。(18)は固定ねじ(10)の螺圧固定を確実にするためのスプリングワッシャーである。

【0016】棹(4)の前端には取付部(19)が固定されており、取付部(19)の前端中央には取付雄ねじ(20)が切つてある。この取付雄ねじ(20)は取付金具(3)から突出した取付雄ねじ(16)と螺合して、棹(4)と取付金具(3)とを着脱自在に結合する。

【0017】棹(4)は適宜の長さの棒、または管で、その材質及び必要強度に応じてその太さを定めてある。図1に示した管の場合、内腔(21)の大きさは、その直径を帯金(5)の幅(W)よりやや大きく、その長さを、帯金(5)の長さ(L)より長くしてある。

【0018】棹(4)の後端には、キヤツプ(22)が嵌めてある。キヤツプ(22)は、携行中に棹(4)の内腔(21)に収容した帯金(5)や螺ナット(13)、ボルト(12)などが脱出・脱落するのを防止する。

【0019】なお、網(1)には、その一侧に、網(1)の深さの方向に、スライド・ジッパー(23)が取り付けられている。スライダ(24)を動かしてスライド・ジッパー(23)を解放することにより、網(1)の上縁(25)を一直線に展開することができるので、帯金(5)を網(1)の上縁(25)に容易に挿通することができる。

【0020】本発明たも網を組み立てるには、まず棹(4)からキヤツプ(22)を外して帯金(5)、六角ボルト(12)、螺ナット(13)を取り出し、1本目の帯金(5)の後端(7)を取付金具(3)の挿入隙間(8)に差し込んで、固定ねじ(10)により帯金(5)を取付金具(3)に仮固定する。次に、2本目の

帯金(5)の後端(7)を取付金具(3)の反対側の挿入隙間(8)に差し込み、1本目の帯金(5)の後端(7)と重ねて、固定ねじ(10)により両者を取付金具(3)に本固定する。次に、この1本目の帯金(5)に網(1)の袋部(帯金を通す部分)を全部通す。次に、両帯金(5)を丸く携めながら、2本目の帯金(5)を1本目の帯金(5)に重ね、両帯金(5)のスリット(6)を重ねて、六角ボルト(12)をスリット(6)に通し、螺ナット(13)を螺合して両帯金(5)を結合し、網(1)の袋部を伸ばして、網(1)の全体の形を整えて、所要のたも網を完成する。

【0021】網(1)の大きさを変えるには、螺ナット(13)を緩めて、帯金(5)をスライドすれば良いので、極めて簡単・容易である。

【0022】必要な網(1)の大きさが小さくて、帯金(5)を1本だけしか用いない場合には、スライダ(24)を動かしてスライド・ジッパー(23)を解放し、網(1)の上縁(25)を図4に示したように一直線にして帯金(5)を通し、帯金(5)の両端を取付金具(3)の挿入隙間(8)に入れて、固定ねじ(10)により固定すればよいので、組み立ては極めて簡単である。

【0023】

【発明の効果】取付金具(3)を棹(4)の先端に取り付け取はずし自在に螺着したので、たも網の使用時には網(1)を棹(4)の先端に取り付け、携行時には網(1)を取り外せるので、使用に便利である。

【0024】また、従来金属線で作っていた口金(2)を、幅の狭い2本の弾性帯金(5)とし、両帯金(5)の後端(7)を取付金具(3)に固定し、両帯金(5)の先端(11)を摺動自在に重ね、これを螺ナット(13)で固定することにより、口金(2)の大きさを自由に換えられるようにしたので、使用者が適時・適切に、その場で口金の大きさを設定することができる。

【0025】棹(4)を中空の管状として、中空部の内径を帯金(5)の幅(W)より大とし、中空部の長さを帯金(5)の長さ(L)より大としてあるので、帯金(5)を、六角ボルト(12)、螺ナット(13)と共に、棹(4)の内部に収納して携行することが出来、かつ棹(4)の末端にはキヤツプ(22)があるので、携行および保管中にこれらが脱落・紛失するなどのことがない。

【0026】また、網(1)には、その一侧に、網(1)の深さ方向に、スライド・ジッパー(23)が取り付けられているので、スライダ(24)を動かしてスライド・ジッパー(23)を解放することにより、網(1)の上縁(25)を直線に展開できるので、帯金(5)を容易に網(1)の上縁(25)に挿通することができる。

【0027】

5

6

【図面の簡単な説明】

【図 1】 棹を分離した、たも網の斜視図

【図 2】 帯金の平面図

【図 3】 帯金の結合要領を説明するための分解斜視図

【図 4】 スライド・ジッパーをはずして網を展開した状態を説明するための、説明図

【図 5】 取付金具の結合要領を説明するための分解斜視図

【0021】

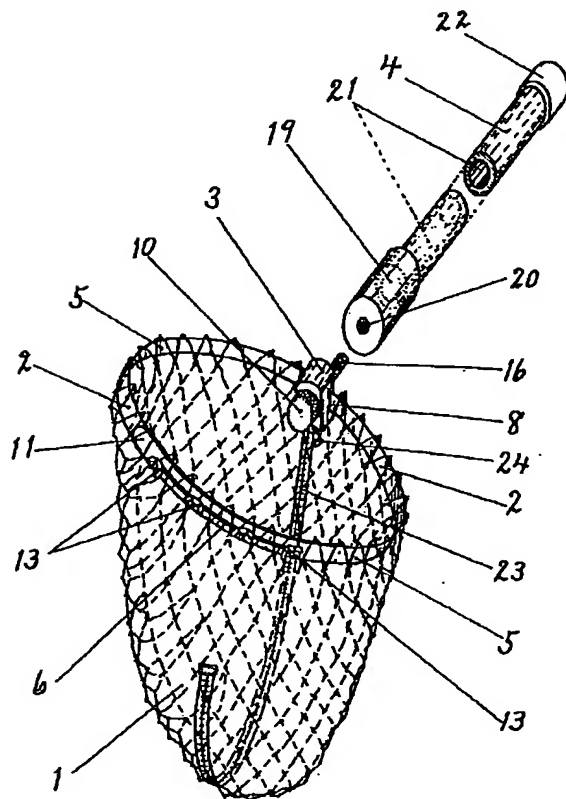
【符号の説明】

- 1.....網
 2.....口金
 3.....取付金具
 4.....棹
 5.....帯金
 6.....スリット
 7.....帯金の後端

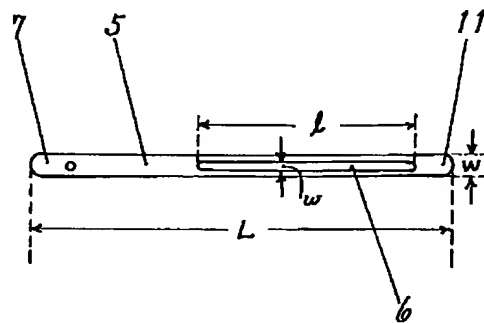
10

- 8.....挿入隙間
 9.....金具表面
 10.....固定ねじ
 11.....帯金の先端
 12.....六角ボルト
 13.....蝶ナット
 14.....取付金具の側面
 15.....取付金具の裏面
 16.....取付雄ねじ
 17.....固定ねじ孔
 18.....スプリングワッシャー
 19.....取付部
 20.....取付雌ねじ
 21.....棹の内腔
 22.....キャップ
 23.....スライド・ジッパー
 24.....スライダー
 25.....網の上縁

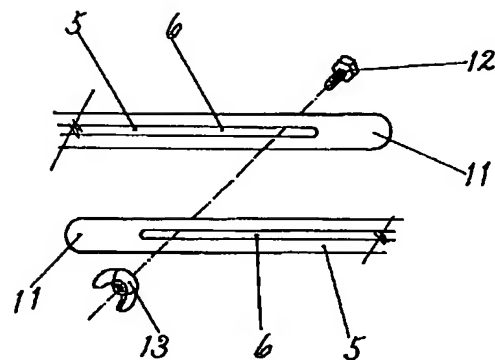
【図1】



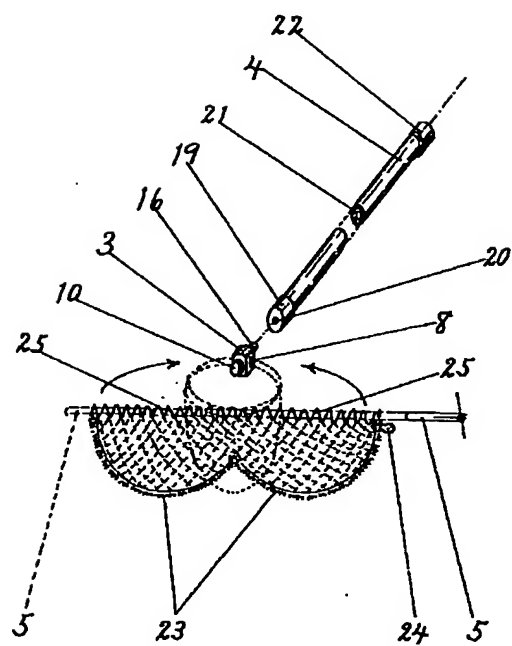
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

